

第5章 推進体制・進行管理

1 関係機関等との連携

「誰もが文化芸術に親しめる千葉」(目指す姿)を達成するためには、国・県・市町村、文化施設、文化芸術団体といった、文化振興を主目的とする関係者だけでなく、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の広範な分野との連携が不可欠です。

このため、県では、県民をはじめ上記など多様な関係者との連携や交流を強化し、各種施策等を実施します。

本県の文化芸術活動の推進、「ちば文化」の創造と発信のために、主な関係者に期待される役割は次のように考えることができます。

(1) 県民等

「ちば文化」を創造し、推進していく主役は県民です。県民一人ひとりが、文化芸術活動を楽しむとともに、地域における文化芸術活動に参加することにより、県民生活がより心豊かに活力に溢れたものとなり、「ちば文化」がますます発展していくことが期待されます。

また、本県の文化に関心を持つ県外の方々についても、祭りやイベント、クラウドファンディングやふるさと納税等を通じ、多様な形で地域と関わる関係人口¹⁵となっていくことが期待されます。

(2) 芸術家、文化芸術団体等

芸術家には、文化芸術の担い手としての役割が期待されます。公益財団法人千葉交響楽団、文化芸術団体やNPOなど、県内各地の文化芸術団体は、文化芸術活動を実践する者として、地域の様々な団体と交流し、地域における文化芸術を担っていくことが期待されます。

(3) 文化芸術振興に関連する法人、団体等

公益財団法人千葉県文化振興財団など文化振興を目的として設立された法人やNPO等は、各種文化事業の企画や文化活動への支援、文化芸術の発信拠点としての文化施設の管理運営業務などを通して、文化芸術の振興を図っており、専門性・継続性を生かし、地域の特性に合った活動が期待されます。

(4) 文化施設等(文化会館、美術館・博物館等)

文化施設等は、多様な文化芸術の提供や創造・情報発信の拠点として、関係機関のネットワーク構築、人材育成等の役割が期待されます。

また、文化芸術以外にも多様な利用を促し、人々が集い、交流する場となることや、地域の拠点としての役割も期待されます。

¹⁵ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のことを指す(総務省・関係人口ポータルサイト)

(5) 学校

小・中学校や高等学校等の学校は、こどもたちが学ぶ場であるとともに、こどもたちが文化芸術に接することで人生をより豊かにするきっかけを与える場でもあります。また、本県の文化芸術活動の裾野を拡大する上で、文化芸術活動の担い手を育成する重要な役割を果たしています。

(6) 大学

大学は、教育機関であると同時に研究機関として、多くの人材や研究成果、施設を有しています。文化芸術活動の主導的な役割を担うほか、地域の文化振興についての助言・提案や情報提供等を行うなどの役割が期待されます。

(7) 企業等

企業や団体、NPO等は、地域社会を構成する一員として、文化芸術活動への支援や、文化資源の活用等を通じて地域の活性化に貢献していくことが期待されます。

(8) 市町村

市町村は、住民の身近に位置する基礎的な自治体として、それぞれの地域の特性を生かし、域内の文化芸術団体や学校、県、他の市町村とも連携を取りながら、地域とともに地域の文化芸術振興の主たる役割を担うことが期待されます。

(9) 県

県は、「文化芸術基本法」等の関係法令、「千葉県文化芸術の振興に関する条例」、県の総合計画及び本計画に基づき、文化以外の分野を所管する県の行政機構、様々な関係者と連携しながら、本県の文化に関心を持つ人々の協力や支援も得られるよう努めつつ、本県の特性に応じた文化芸術に関する施策を総合的に推進します。

2 計画の進捗状況の評価等

本計画の進捗管理については、基本目標及び施策の柱ごとに、計画（Plan）－実施（Do）－評価（Check）－改善（Action）というマネジメントサイクルに基づいて行います。

毎年度、指標の達成度等を分析し評価するほか、関連事業の実施状況を把握し、有識者会議等の第三者の視点からの意見を聴いた上で、それらの結果を公表します。

また、中間年度には国内外の情勢の変化等を踏まえて評価を行うこととし、有識者会議等の第三者の視点からの意見を聴いた上で、結果を公表します。

これらの結果を施策の改善等に生かしていきます。

さらに、県内の文化芸術活動の状況について定期的・継続的に調査し把握します。

3 計画における指標について

【基本指標】

指標	現状	目標
	(令和5年度)	(13年度)
目指す姿 誰もが文化芸術に親しめる千葉		
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 (オンラインでの鑑賞を含む)	76.7%	90.0%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合 (オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	28.0%	50.0%

【成果指標】

指標	現状	目標
	(令和5年度)	(13年度)
施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実		
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術を鑑賞した人数 (オンラインでの鑑賞を含む) (文化会館は自主事業に限る)	4,219,460人	増加を目指す ^{※1}
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術活動をした人数 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等(オンラインでの活動を含む)) (文化会館は自主事業に限る)	575,757人	増加を目指す ^{※1}
県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数(子ども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	108,677人	増加を目指す ^{※1}
文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合	22.1%	50.0%
施策の柱2 文化芸術を通じた連携・協働		
観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合(いずれもオンラインでの取組を含む)	42.6%	70.0%
施策の柱3 多様な伝統文化の保存・継承・活用		
県主催の伝統文化事業の鑑賞者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業(オンラインでの鑑賞を含む)	574,197人	増加を目指す ^{※1}
県主催の伝統文化体験事業の参加者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業(オンラインでの体験行事を含む)	71,323人	増加を目指す ^{※1}
施策の柱4 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信		
千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合	—	増加を目指す ^{※2}

※1 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする

※2 令和7年度の県政世論調査からの増加を目指す